大阪は‘まち’がほんまにおもしろい

大阪あそ歩 OSAKA ASOBO®

一、十、百、千、千林を歩く
～京街道、野崎街道、主婦の商店街～

全国でも有数の活気ある最寄品商店街が集まっている千林。その名は「大阪のおばちゃん」の愛称とともに全国にとどろいています。その中心になるのが千林商店街。かつてはダイエーやニチイ、個人商店が激しい価格競争をくりひろげ「日本一安い商店街」と言われたことも。しかし、このあたりはその昔、静かな農村地帯だったのです。

① 国道1号
起点は東京都中央区日本橋で、終点は大阪市北区の梅田新道交差点です。総距離は543．1キロメートルで、ルートの約9割が旧・東海道と並行して走っています。

② 京街道の碑
豊臣秀吉が京都と大坂を結ぶ道として、淀川左岸の堤防を改修して造りました。野江から関目にかけては大坂城防衛のために造られた「七曲がり」の一部なども残っています。当初は大坂城京橋口を起点としていましたが、江戸時代には高麗橋を起点とするようになりました。参勤交代にも使用されて、大変な賑わいをみせましたが、国道1号が整備されると、往時の面影はなくなりました。国道1号とほぼ並行に走っています。

③ 角屋
創業50年以上の老舗で、「関西うまい店グランプリ」にも選ばれ、雑誌などでもしばしば取り上げられています。夏場はアイスモナカ、冬場は回転焼きが人気で、店内でも食べる事が出来ますが、食べ歩きがオススメです。あんこもアイスも全て自家製で、できたてにこだわって、作り置きをしていません。いつ行っても行列ができている、地元人イチオシの名店です。

④ 花幸タオル
戦後に、雑貨屋さんから始まりましたが、昭和38年（1963）頃にタオル専門店になりました。エプロン・日よけグローブなども多少は取り扱ってはいますが、ほぼタオルだけで50年近く商いを続けています。国産の良質タオルなどがまさかのお値段で、近くで、必要なものがすべて揃うのが千林商店街の魅力です。

⑤ 朝日地蔵
この辺りは明治頃までは四方八方に水路が流れていて、住人は舟で行き来を行っていました。朝日地蔵さんは鼻がかけていますが、これは舟人のイタズラで櫂で叩かれて欠けたと言う説や、ここがちょうど水路の曲がり角だったために、舟の方向転換の櫂の当て場とされて凹んだという説など、色んな逸話があります。お地蔵さんなのにお酒が好きで、そういう庶民的なところが地域住民に慕われています。

⑥ 鳥清 千林店
鶏肉の専門店で、ここで鶏をさばいて販売しています。大評判なのが「谷から」（店主・谷さんが揚げた唐揚げのこと）で、買い物帰りのお母さんから漂ってくる匂いだけで、地元の子供は「谷から」とわかるといいます。食べ盛りの子供達のおやつ、食卓には欠かせない、ひと味違う人気の唐揚げです。

⑦ 戦後の市跡
第二次大戦後の引き揚げの人たちの住居で賑わった界隈です。この辺りは小さな川が流れていて、川辺には人が集まり、人が集まると自然と商いが始まりました。当初は立飲み屋が多かったようですが、現在は、知る人ぞ知る地元のおばちゃんには欠かせない、千林のお買い物通りとなっています。生鮮を扱っているお店などは夕方早くには品切れとなるので、お買い物はお早めに。

⑧ 千林商店街
天神橋や駒川とあらそう大商店街で、京阪千林駅から地下鉄千林大宮駅まで、東西660メートルで、その両側に約220店舗が並んでいます。当初は呉服、衣服、身廻品および生鮮三品（魚・肉・野菜）などを主に取り扱う商店街でしたが、隣接していたダイエー、ニチイ、個人商店との価格競争の激しさから「日本一安い商店街」ともいわれました。気さくで飾り気のない地元のおばちゃんの鋭いけれど面白い意見やコメントはテレビ番組でも大人気で、よく街角インタビューなども行われます。また全国的にも珍しい商店街のテーマソングがあって、歌うのは大物歌手デューク・エイセス（1955年結成。かに道楽のCMソングなどでお馴染み）。10分に1回、「光あふれる輝きと、こぼれる笑顔に迎えられ、一、十、百、千、千林♪親しみの町、千林♪」と商店街一帯に流れます。

⑨ 荘園への川の跡
この辺りには庄屋さんが多く、現在の城東区古市にあった荘園へこの地から舟で出かけていました。もともと、この地は古市村と呼ばれており、地元小学校の名が離れた土地の地名と同じ古市小学校ということからも、その名残が感じられます。現在も川の名残が残っていて、1段高く作られた住居や、石垣が残っています。

⑩ 高島屋均一市の跡
高級百貨店として知られる高島屋ですが、かつて千林商店街内に10銭・20銭均一のお店を開いていました。現在で言えば「百均」（100円均一のお店）の走りといえます。

⑪ 強頸絶間（こわくびたえま）の碑
※個人邸宅内にあるため、見学はできません。

5世紀頃のことです。かつて淀川は暴れ川で、しばしば難波の地は水難にあいました。そこで仁徳天皇が治水工事を開始しますが、なかなか進展しません。そこで難所であった2箇所に河の神に生贄を捧げることを決め、神のお告げによって河内国の茨田連衫子（まむたのむらじころものこ）と武蔵国の強頸絶間（こわくびたえま）の2人が選ばれました。茨田連衫子は機転を利かせて、川にひょうたんを投げ込み、「本当の神ならば、ひょうたんを沈めてみよ」と叫び、すると、ひょうたんは沈まなかったので生贄を免れましたが、強頸は泣く泣く生贄として淀川に沈められました。『摂津名所図会』には強頸絶間の跡は、絶間池（現存せず。大阪市旭区千林）として残り、江戸時代にはここで大きな金仏が発掘され、強頸の霊を弔った仏像だと評判になったという記述があります。石碑はこの伝承にちなんで建てられたものです。

⑫ 日本茶・茶道具専門店 加藤銘茶本舗
お茶と茶道具一筋60余年の老舗で、静岡の茶問屋出身の祖父・加藤久吉氏が、戦前に開業しました。以来、ルーツである静岡の「深蒸し煎茶」と「自家製ほうじ茶」を中心に販売しています。現在は3代目店主・加藤進さんが日本茶インストラクター、茶審査技術八段の技術を活かして、独自のブレンドを施した日本茶を提供しています。地域密着を基本姿勢としつつ、インターネットでの全国発送も展開しています。

⑬ ダイエー1号店跡
日本で最初のスーパーマーケットと言われるダイエーは、当初は「主婦の店ダイエー（ダイエー薬局）」として昭和32年（1957）に京阪千林駅前でオープンしました。その後、当地に移転。昭和49年（1974）に閉店しました。ダイエー薬局と某薬局の価格争いの名残からか「千林の薬局は安い」と、今でも話題になっていて、遠くからまとめ買いに訪れる人も大勢います。

⑭ 野崎ガード（野崎街道）
野崎とは野崎観音のことで、正式には「福聚山 慈眼寺」（大東市）といいます。天平勝宝年間（749～757）に行基が十一面観音を刻んで安置したのが始まりと伝えられ、平安時代には江口の君が、難病治癒のために参詣したという伝承もあります。中世以後は戦乱で衰微しますが元和2年（1616）に青厳によって再興され、天和2年（1682）に「野崎参り」（有縁無縁のすべてのものに感謝のお経をささげる仏事）が始まりました。かつては野崎観音の西側一帯は大池（深野池）があり、大坂からは屋形船が行き来しました。大和川付替以降は寝屋川および支流の谷田川を行き来するようになり、天満橋・八軒家船着場から上っていくルートと、陸路を歩く参拝者とが、罵り合って競り勝てば一年の幸を得られたといいます。この野崎参りの様子は、人形浄瑠璃や落語の作品を通じても知られていますが、野崎街道は、その陸路です。

【注意事項】この地図は「大阪あそ歩」のまち歩きの資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を着用してください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また、住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。

【お問い合わせ】大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会「大阪あそ歩」事務局　電話06-6282-5930（財団法人大阪観光コンベンション協会内）「大阪あそ歩」の詳しいプログラムはホームページをご覧ください。　http://www.osaka-asobo.jp　または　大阪あそ歩　でネット検索を。

大阪あそ歩のコースは約2～3km、2～3時間程度を基準として作成されています。